東紫編

雲飛脚二代羽衣

通油町鶴喜

中

圓賢多四筆墨蚊

古今雜譜簡編疎

へ13
2946
111

111
へ13
2946
111
特

鸚鵡能人の詞を通ひ天津乙女の欄間合天井に見
舞遊と孰鳥類とかなれど。昔人漁父伯子羽衣と
得られ飛夏あくはざるこの空く毛衣に肌寒と凌ぐのこ
今此三冊子を著を伯藏が得し羽衣よく身に應じて
飛行自在となるこむ豈帝衣を着く川はまるれ
あくひあくん功ありて身を保の一助をなしさげ乃
なるべくなれど閲まれ昔の童蒙のよれ肥なるべくと
鋤鍬の間よく毫と執をもちい。

辛酉上春

竹の塚農夫
竹翁ある者乎

伯

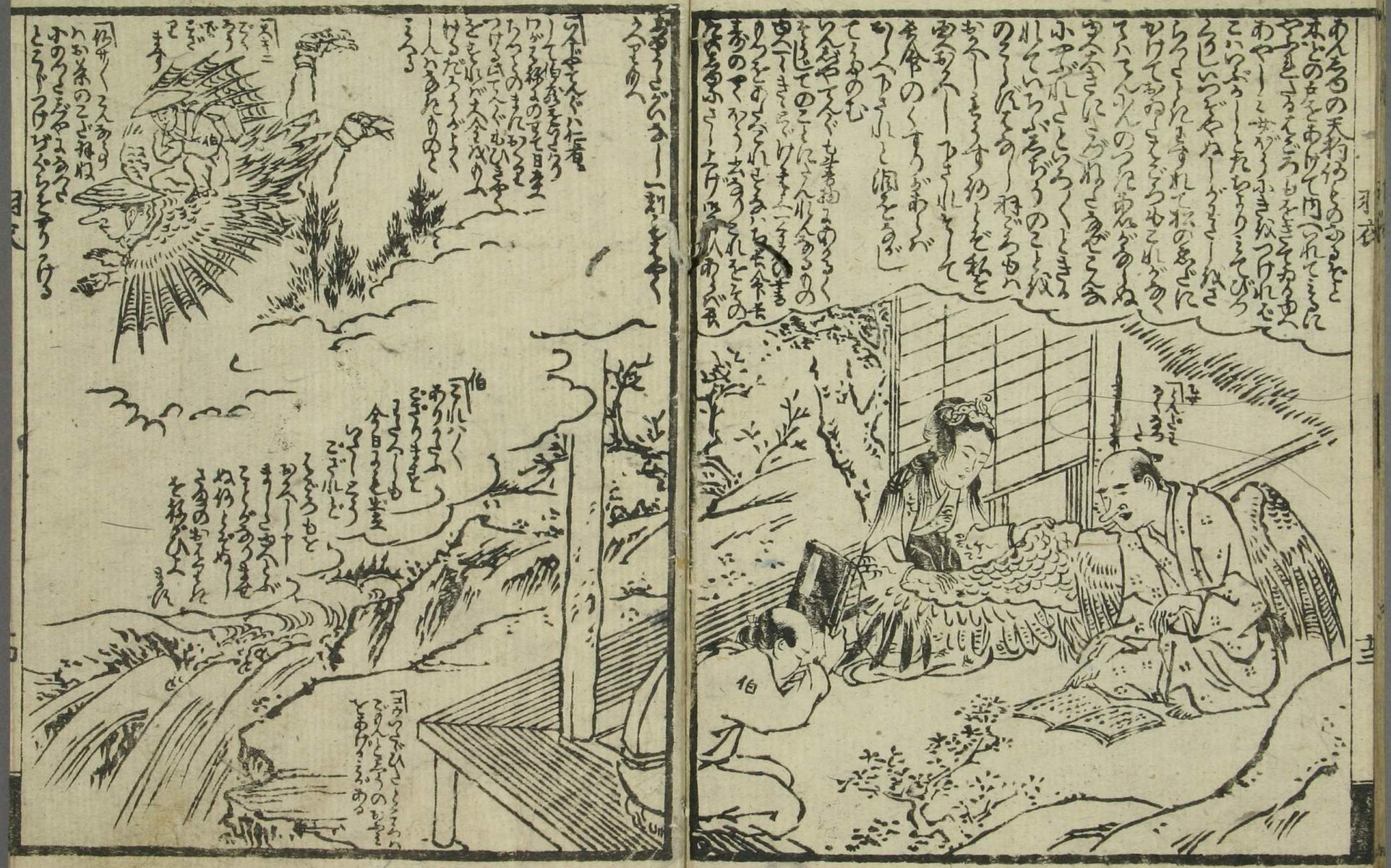
百里一日
千里十日
御
羽衣
伯耆

伯

七

日本渡海説

伯



伯藏ハかの大守より金三千両のあたりのてうだいしてふ
竹の塚の翁作
十五